



Red Hat Subscription Management All Subscription Docs

Red Hat Enterprise Linux における Subscription Manager のトラブルシューティング

Red Hat Subscription Manager および Subscription Asset Manager の問題への対応
エディション 3

Red Hat Subscription Management All Subscription Docs Red Hat Enterprise Linux における Subscription Manager のトラブルシューティング

Red Hat Subscription Manager および Subscription Asset Manager の問題への対応
エディション 3

Red Hat Subscription Management Documentation Team
rhsm-docs@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2013 Red Hat, Inc.

This document is licensed by Red Hat under the [Creative Commons Attribution-ShareAlike 3.0 Unported License](#). If you distribute this document, or a modified version of it, you must provide attribution to Red Hat, Inc. and provide a link to the original. If the document is modified, all Red Hat trademarks must be removed.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux ® is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java ® is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS ® is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL ® is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js ® is an official trademark of Joyent. Red Hat Software Collections is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack ® Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat Enterprise Linux の subscription-manager ツールの問題に関するトラブルシューティング

目次

1. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGER のトラブルシューティング	2
1.1. Red Hat Enterprise Linux 5.9	2
1.1.1. ゲストファクトで UUID が不明と表示される	2
1.2. Red Hat Enterprise Linux 6.2	2
1.2.1. 優先されるオペレーティングシステムリリースの手動設定	2
2. SUBSCRIPTION ASSET MANAGER のトラブルシューティング	3
2.1. Subscription Asset Manager 1.3	3
2.1.1. インスタンスベースのサブスクリプション変更に必要なアップグレード	3
2.1.2. 強化されたレポート機能に関する一般的な問題	3
A. 改訂履歴	6

1. RED HAT SUBSCRIPTION MANAGER のトラブルシューティング

他のサービス、Red Hat Subscription Manager の機能、および環境が異なるため、Red Hat Subscription Manager にはバグや機能制限があります。本セクションでは、このような問題の一部について、回避策およびトラブルシューティングを説明します。

1.1. Red Hat Enterprise Linux 5.9

1.1.1. ゲストファクトで UUID が不明と表示される

仮想ゲストでは、Subscription Manager デーモンは `dmidecode` を使用して System Management BIOS (SMBIOS) 値を読み取ります。その値はゲストの UUID を取得するために使用されます。64 ビットの Intel アーキテクチャーでは、Intel ファームウェアによって SMBIOS 情報が制御され、読み取り専用のバイナリーエントリに保存されます。したがって、UUID を取得したり、読み取り可能な新しい UUID を設定したりすることはできません。

ゲストの UUID は読み取りできないため、ゲストシステムで `facts` コマンドを実行すると、システムの `virt.facts` で `Unknown` の値が示されます (`virt.uuid: Unknown`)。これは、ゲストに、ホストマシンと関連付けられていないため、サブスクリプションを継承しないことを示しています。

Subscription Manager で使用されるファクトは、手動で編集して UUID に追加できます。

1. ゲスト名またはゲスト ID を取得します。
2. 仮想ホストで、`virsh` を使用してゲストの UUID を取得します。たとえば、`rhel5server_virt1` という名前のゲストの場合は以下ようになります。

```
virsh domuuid rhel5server_virt1
```

3. ゲストで、手動でファクトファイルを作成します。

```
vim /etc/rhsm/facts/virt.facts
```

4. 指定した UUID を含む行を追加します。

```
{  
  "virt.uuid": "$VIRSH_UUID"  
}
```

ファクトファイルを作成し、適切な UUID を挿入することは、Subscription Manager が、`Unknown` 値を使用せずにゲストを適切に識別できることを意味します。

1.2. Red Hat Enterprise Linux 6.2

1.2.1. 優先されるオペレーティングシステムリリースの手動設定

Red Hat Enterprise Linux 6.3 以降、Red Hat Subscription Manager は、システムの自動更新を制限するために、優先されるオペレーティングシステムのバージョンを設定できます。これは、サブスクリプ

ションの自動アタッチに使用するために使用できる設定のうちの1つです。ただし、以前のバージョンの Red Hat Enterprise Linux に、Red Hat Subscription Manager から優先されるオペレーティングシステムを設定することはできません。

yum 設定を編集すると、システムは Red Hat Enterprise Linux 6.2 の特定のオペレーティングシステムに制限できます。たとえば、yum の更新を 6.2 バージョンのパッケージに制限するには、以下を行います。

```
[root@server ~]# echo 6.2 > /etc/yum/vars/releasever
```

2. SUBSCRIPTION ASSET MANAGER のトラブルシューティング

他のサービス、Red Hat Subscription Manager の機能、および環境が異なるため、Red Hat Subscription Manager にはバグや機能制限があります。本セクションでは、このような問題の一部について、回避策およびトラブルシューティングを説明します。

2.1. Subscription Asset Manager 1.3

2.1.1. インスタンススペースのサブスクリプション変更に必要なアップグレード

新しいサブスクリプション体系と新価格が Subscription Asset Manager 1.3 リリースに適用されました。Subscription Asset Manager 1.3 (および更新された Red Hat Subscription Manager) は、以前のサブスクリプション構造と、更新したサブスクリプションを適切に解析して適用します。以前のバージョンの Subscription Asset Manager には適用されません。



重要

2013 年 10 月 1 日以降に購入されるサブスクリプションには、新しいインスタンススペースモデルが採用されています。新しいサブスクリプションを使用するには、すべての Subscription Asset Manager サーバーをバージョン 1.3 にアップグレードする必要があります。以前のバージョンの Subscription Asset Manager は、新しいインスタンススペースのサブスクリプションと互換性がありません。

また、新しいインスタンススペースのサブスクリプションを使用するために、すべてのローカルシステムでローカルの Red Hat Subscription Manager パッケージを更新することを強く推奨します。

アップグレードプロセスには、Subscription Asset Manager およびそのデータベースのバックアップを取得し、インデックスを管理し、パッケージを更新することが必要になります。アップグレードの詳細な手順は、[サブスクリプションドキュメントセット](#)の『Subscription Asset Manager の使用』ガイドを参照してください。

2.1.2. 強化されたレポート機能に関する一般的な問題

問： レポートにシステムが表示されないのはなぜですか？

答： レポートデータベースに情報が取得できていません。考えられる原因はいくつかあります。

Satellite サーバーから情報を取得できていない。

Subscription Asset Manager サーバーに情報が送られたときに、情報が破損していたか、フォーマットが適切でなかった。

Subscription Asset Manager からレポーティングデータベースへの情報送信が適切に行われていない。

情報がデータベースに適切に保存されていない。

Subscription Asset Manager に保存されている情報が古くなっている。

はじめに、同期ツールのログ (`/var/log/splice/spacewalk_splice_tool.log`) の履歴で、同期スクリプトが実行していることを確認します。

次に、Mongo サービスが稼働しており、ポート 27017 をリッスンしていることを確認します。Mongo サービスが稼働していないと、Subscription Asset Manager サービスを起動することはできません。

```
[root@sam-server ~]# service mongod status
[root@sam-server ~]# telnet localhost 27017
```

サービスが稼働している場合は、Mongo データベースで同期エントリーを探します。以下は例となります。

```
[root@sam-server ~]# mongo checkin_service --eval
"printjson(db.marketing_product_usage.count())"
```

問題が見つからない、または関連するエントリーが見つからない場合は、レポーティングのデバッグスクリプトを実行します。

```
[root@sam-server ~]# /usr/bin/splice-debug
```

これにより、関連するすべての設定と、レポーティングサーバーのログファイルが収集され、`/tmp` ディレクトリーの `splice-debug-YYYY-MM-DD-TIME` ファイル (例: `/tmp/splice-debug-2013-06-14-T15-22-19`) にデータをエクスポートします。

必要に応じて、このディレクトリーを `zip` で圧縮し、サポートチームに提出してください。

問： 新しいレポートを作成しようとすると、**Validation failed: A server name has not been defined in the database. The backend splice tool must execute at least one time** エラーが発生します。

答： Subscription Asset Manager サーバーで `spacewalk-splice-checkin` ユーティリティーを最初に実行したときに、Satellite サーバーからデータを取り出して、Subscription Asset Manager データベースに組み込みます。これを行わないと Satellite 情報がないため、必要な Satellite サーバーおよび組織を使用してレポートを設定することができません。

問： すべてのシステムが無効としてマークされるのはなぜですか？

答： マニフェストがインポートされていることを確認します。このマニフェストにより、Subscription Asset Manager は、Satellite サーバーがアタッチしたサブスクリプションを認識します。マニフェストがないと、レポート機能は、利用可能なサブスクリプションがないと考えます。

問： Subscription Asset Manager で、システムまたは Satellite サーバーのサブスクリプションを更新しましたが、その変更がレポートに反映されません。

答：同期スクリプトは4時間ごとに実行するため、変更が同期されていない可能性があります。手動でスクリプトを実行してください(終了するまで数分かかる場合があります)。

```
[root@sam-server ~]# su - splice -s /bin/bash
[splice@sam-server ~]$ spacewalk-splice-checkin
```

問：レポート結果の **Satellite 5.6 UI** へのリンクが、**HTTP 404 エラー**を返します。

答： **Satellite 5.6** マシンで **rhn-search** プロセスが実行していることを確認します。

問：使用している **Subscription Asset Manager** サーバーに、別の組織およびシステムを登録していますが、**UI**には表示されなくなりました。何が起こったのですか？

答：強化されたレポートに使用される **Subscription Asset Manager** インスタンスに **Satellite** 以外の組織が追加された場合は、その組織が、同期プロセス時に **Subscription Asset Manager** データベースで上書きまたは削除される場合があります。



警告

強化されたレポートをに使用される **Subscription Asset Manager** インスタンスは、**Satellite** のレポートサーバーとして **のみ** 使用できます、システムを管理する通常の **Subscription Asset Manager** インスタンスとして使用することはできず、使用するとデータが失われることがあります。

A. 改訂履歴

改訂 1.3-6.1

Tue Jul 3 2018

Terry Chuang

翻訳ファイルを XML ソースバージョン 1.3-6 と同期

改訂 1.3-6

January 24, 2018

Anni Bond

タイトルと、Bugzilla にドキュメントを作成する方法を更新。

改訂 1.3-5

September 18, 2013

Deon Ballard

新規コンテンツおよび SAM 1.3 リリース用に再編成。